

2024年1月

## 「静かな地域愛着」が人々の幸福度を高めるカギ

～地域活動に参加しなくても地域に愛着を持つ「静かな地域愛着者」の実態と、とるべき施策～

野村総合研究所 未来創発センター 生活DX・データ研究室 エキスパート研究員 広瀬 安彦

生活者の幸福度を高めるためには、家族の一員、就労者、消費者、地域住民など、生活者が持つ様々な側面を考慮に入れることが重要です。野村総合研究所（NRI）では、2023年2月、全国の15～79歳の男女個人3,617人を対象に「日本人の生活に関するアンケート調査」を実施しました（調査概要は資料の末尾を参照）。その中で、「地域住民」という側面から、地域との関係が人々の幸福に及ぼす影響を分析しました（本資料に記載した構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない場合や、内訳の計と合計が一致しない場合があります）。

### 【調査結果の要約と提言】

- 居住している地域への愛着や地域活動<sup>1</sup>への参加が、人々の幸福度を高める。
- 地域への愛着はあるが、地域活動には参加しない「静かな地域愛着者」がいる。
- 静かな地域愛着者の割合は29.1%であり、その中で、幸福度が10点満点で8点以上の人の割合が38.8%と高水準（全体平均は31.1%）である。日本人生活者の幸福度を高めるためには、静かな地域愛着者を増やすことが方策の一つとして考えられる。
- 静かな地域愛着者は都市部に多く、男性30代、女性20～30代で少ない。
- 静かな地域愛着者を増やすためには、既存の地域活動への参加を促すだけでなく、文化・レジャー施設の充実や子育て支援の充実が有効な施策と考えられる。

### ■ 地域への愛着や地域活動への参加が幸福度を高める

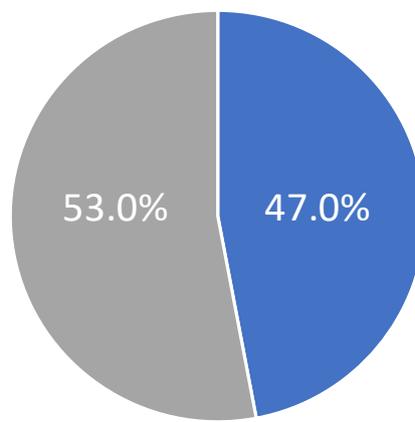
自分が住む地域に「愛着がある」人は47.0%（図1）となっています。地域愛着の有無別の幸福度<sup>2</sup>（図2）について、幸福度が8点以上（10点満点）の割合をみると、全体が31.1%であった

のに対して、愛着がある人が 45.6%、愛着がない人は 18.3%となっており、地域への愛着の有無で、幸福度に大きな差がありました。

**図 1 : 地域に愛着がある人の割合**

設問：あなたは、現在お住まいの地域に愛着がありますか  
 (「とても愛着がある」から「まったく愛着がない」までの 5 段階)

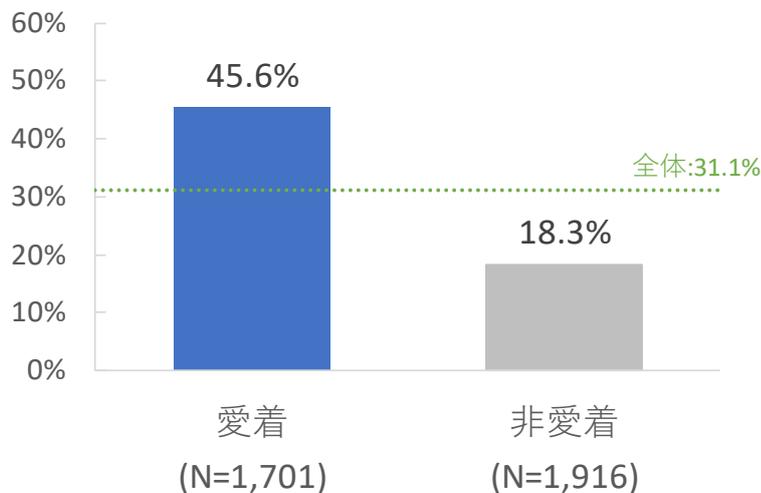
N=3,617



NRI「日本人の生活に関するアンケート調査」(2023年2月)

**図 2 : 地域愛着の有無別に見た幸福度 : 8 点以上の割合**

設問：あなたは、ふだん、どのくらい幸福だと感じていますか (10 点満点)



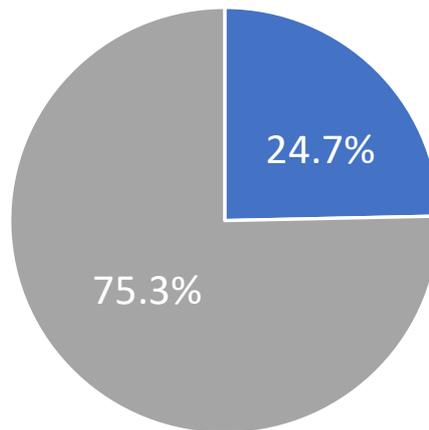
NRI「日本人の生活に関するアンケート調査」(2023年2月)

また、何かしらの地域活動に参加している人は 24.7%（図 3）いますが、参加の有無別の幸福度（図 4）をみると、幸福度が 8 点以上（10 点満点）の割合は、地域活動に参加している人で 48.4%であるのに対し、参加していない人では 25.5%となり、愛着の有無と同様に、地域活動の有無で大きな差がありました。このことは、居住地域への愛着度や地域活動への参加率を高めることで、幸福度が高められる可能性を示しています。

### 図 3 : 地域活動に参加している人の割合

設問：あなたは現在、どのような地域活動に参加していますか  
(選択肢：「地縁による活動」「ボランティア活動」「子育て関連の活動」など)

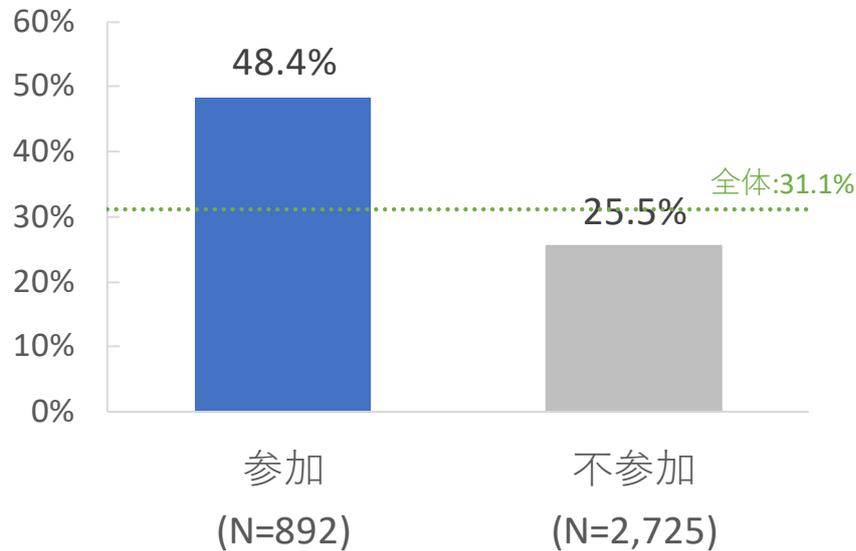
N=3,617



NRI「日本人の生活に関するアンケート調査」(2023年2月)

**図4：地域活動参加の有無別の幸福度：8点以上の割合**

設問：あなたは、ふだん、どのくらい幸福だと感じていますか（10点満点）



NRIF「日本人の生活に関するアンケート調査」（2023年2月）

■ **地域愛着はあるが地域活動には参加しない「静かな地域愛着者」**

居住地域への愛着の有無と、地域活動への参加有無の関係を基に、生活者を4象限（セグメント）で整理し、それぞれのグループに名称を付けました。各セグメントの回答者の割合を整理したものが図5です。

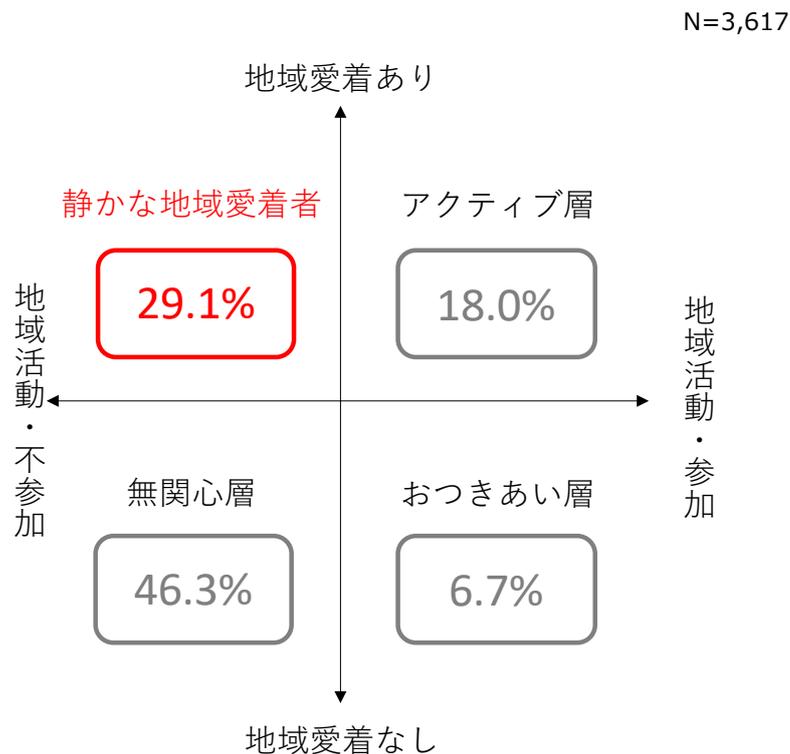
地域に愛着を持ち地域活動にも参加している「アクティブ層」は18.0%、地域活動に参加しているのに愛着を持っていない人は「おつきあい層」と考えられ6.7%の割合で存在しています。愛着はなく、地域活動にも参加していない「無関心層」は、46.3%と最も多い割合です。地域活動に参加していないにも関わらず地域に愛着を持っている層の割合は29.1%と2番目に多く、この層を積極的に発言・行動しない「静かな大衆（Silent majority）」になぞらえて「静かな地域愛着者（Silent local lover）」と名付けました。

次に、この4象限別に幸福度を見たものが図6です。幸福度が10点満点で8点以上と高い人の割合は、「アクティブ層」が56.6%と最も高い水準で、「おつきあい層」では26.4%、「無関心層」では17.1%と低くなっています。注目すべきは「静かな地域愛着者」において、幸福度が高い人の割合が38.8%と「アクティブ層」の次に高いことです。地域活動に参加をしていなくても、地域に愛着をもつことと

幸福度の高さに関係があることがわかりました。

地域活性化という視点では、従来、「地域活動にいかに参加してもらえるか」という点が注目されてきました。しかし、居住者の幸福という視点では、地域活動に参加することだけでなく、地域に愛着を持ってもらうことも重要です。以下では、「静かな地域愛着者」に焦点をあてて、深掘りした分析を行います。

**図5：地域愛着・活動有無別の構成比**

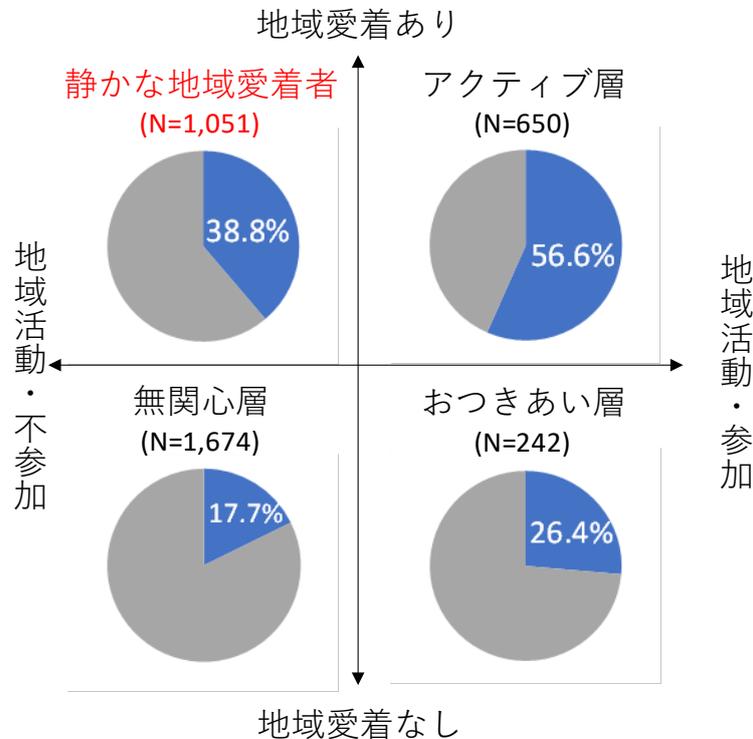


※4 セグメントの名称は NRI が独自に命名

NRI「日本人の生活に関するアンケート調査」（2023年2月）

図6：地域愛着・活動有無別の幸福度：8点以上の割合

設問：あなたは、ふだん、どのくらい幸福だと感じていますか（10点満点）



※全体の幸福度：31.1%

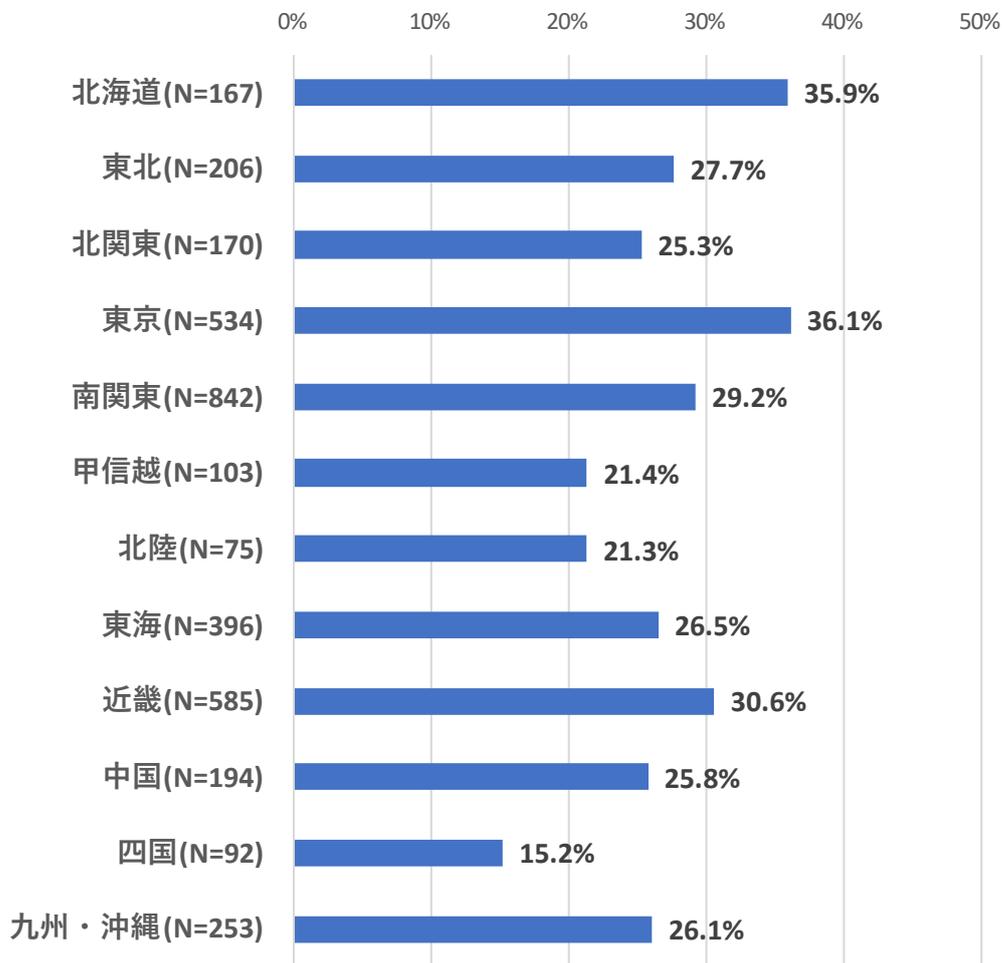
NRI「日本人の生活に関するアンケート調査」（2023年2月）

### ■ 静かな地域愛着者は都市部に多い

静かな地域愛着者の割合をエリア別（図7）で見ると、東京が36.1%と最も高く、次いで北海道が35.9%、近畿が30.6%、南関東が29.2%と続いています。最も低いのは四国の15.2%でした。東京23区、札幌、大阪、京都、横浜、川崎などの都市部があるエリアで、静かな地域愛着者が多く見られます。

「文化・レジャー施設、飲食店などの充実が地域愛着の形成を規定する<sup>3</sup>」という指摘があることから、都市部では特別な地域活動を介さなくても地域への愛着が生まれやすいため、結果として静かな地域愛着者の割合が多くなっていると考えられます。

図7：静かな地域愛着者の割合（エリア別）



※全体の静かな地域愛着者の割合：29.1%

※北関東は茨城・栃木・群馬県、南関東は千葉・埼玉・神奈川県

出所：NRI「日本人の生活に関するアンケート調査」（2023年2月）

### ■男性30代、女性20～30代で少ない「静かな地域愛着者」

静かな地域愛着者の割合を性・年代別で調査した結果（図8）をみると、全体平均で30代が低く50代で高い傾向にあります。男性の場合は、20代で31.5%と最も多くなっていますが、30代になると22.8%と急激に減少しています。女性は20代で22.5%、30代で25.0%と、40代以上と比べて明らかに低い水準です。

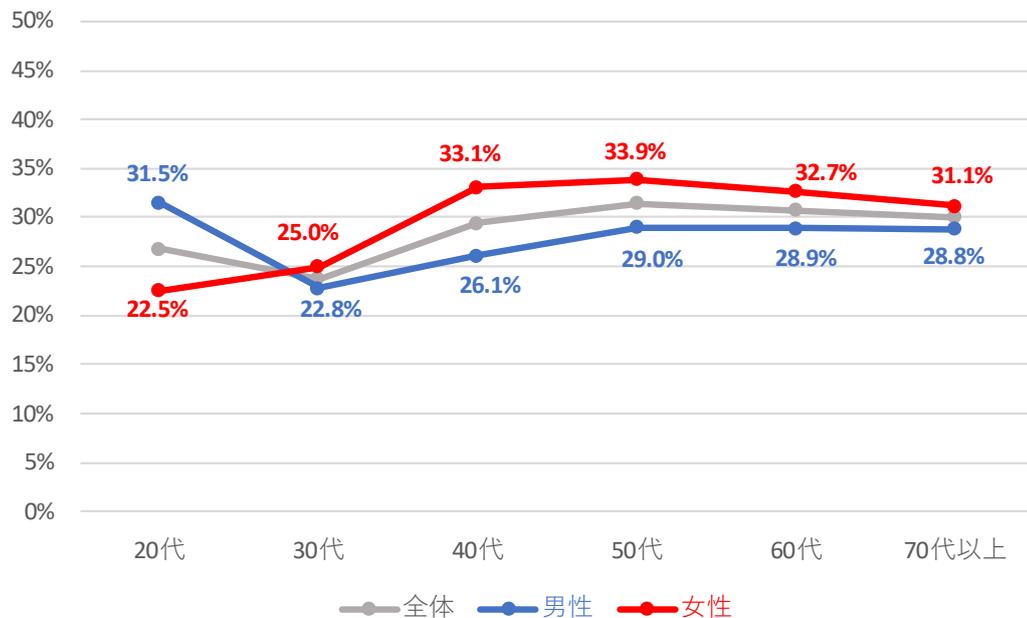
男性30代、女性20・30代は、結婚を機に新たな地域に引っ越す割合が高い<sup>4</sup>という調査結果があります。このことから、生まれ育った土地以外で小さな子供の子育てをする人が多く、保育園や小学校

などで地域との関係が新たに築かれることが想定されます。しかし、居住年数が浅いため、知り合いや地域についての知識が少ないと考えられます。

こういった層で「静かな地域愛着者」を増やすためには、地域活動への参加を促すばかりではなく、愛着を持ってもらうための施策が重要です。たとえば、同年代同士の横のつながりを生む場を創出したり、保育施設など子供向けの各種施設や子供を連れていける飲食店などを充実させたりすることが、有効な施策として考えられます。

図8：静かな地域愛着者の割合（性・年代別）

N=3,617



※全体の静かな地域愛着者の割合：29.1%

出所：NRI「日本人の生活に関するアンケート調査」（2023年2月）

### ■ 静かな地域愛着者を増やすために

地域での消費行動の際に、訪れる店舗の形態や規模の差異などが、地域愛着に影響を及ぼす可能性が指摘されてもいます<sup>5</sup>。特に「静かな地域愛着者」の割合が少ない20～30代の子育て世帯向けの施設や店舗がポイントになります。各地域には、地域の祭りやイベントといった活動への参加促進だけでは

なく、子育て世帯に支持される文化・レジャー施設や飲食店の整備、公共サービスの拡充が求められます。

人口増加率が6年連続全国1位となった千葉県流山市は、都市部にしかなかった有名店舗やシネマ・コンプレックスなどが入る大型複合商業施設を誘致したことに加え、都内に通勤する共働き世帯向けに、子供を駅から保育施設まで送迎するサービスも提供しています。また、保育園の園庭やホールなどを開放し、子育て中の親からの育児相談や子育て関連の各種行事を行う「地域子育て支援センター」事業も展開しています。その結果、流山市における地域活動への参加率は25.7%であるものの、地域への愛着を感じる割合は80.4%となっています<sup>6</sup>。

この事例からもわかるように、静かな地域愛着者を増やすためには、既存の地域活動への参加を促すだけでなく、文化・レジャー施設の充実や子育て支援の充実が有効な施策と考えられます。

【調査概要】

調査名	日本人の生活に関するアンケート調査（2023年2月）
調査期間	2023年2月24日から2023年2月28日
調査方法	インターネットアンケート
対象者	全国に居住する15歳～79歳の男女個人
回答数	3,617人（性・年代別に2020年の国勢調査結果をもとに人口構成比で割付（予備サンプルを含む））

【サンプル数】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
男性	95	203	254	341	310	294	295	20
女性	93	204	244	329	304	297	334	

<sup>1</sup> 地域活動については、①地縁による活動（町内会、自治会、老人会、婦人会、青年団など）、②ボランティア活動（消防、防犯、清掃、福祉など）、③子育て関連の活動（PTA、ママ・パパ会、スポーツ少年団など）、④お祭り関連の活動（御神輿、盆踊りなど）、⑤スポーツ関連の活動（ラジオ体操、地域のスポーツチームに所属など）、⑥カルチャー関連の活動（絵画、コーラスなど）、⑦その他、⑧参加していない、という設問で調査しました。

<sup>2</sup> 「幸福度」については、「非常に幸福」を10点、「非常に不幸」を0点として、あてはまるものを1つ選択する設問で調査しました。調査結果の詳細は、未来創発センター研究レポート Vol.4「データでみる日本人の幸福なライフスタイル」を参照ください。

<https://www.nri.com/jp/knowledge/report/lst/2023/souhatsu/0509>

<sup>3</sup> 引地博之, 青木俊明, 大淵憲一 (2009)「地域に対する愛着の形成機構— 物理的環境と社会的環境の影響—」『土木学会論文集』D, 65(2), P.101-110.

<sup>4</sup> 新婚生活実態調査 2017 (リクルートマーケティングパートナーズ)

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000129.000025184.html>

<sup>5</sup> 鈴木春菜, 藤井聡(2008)「地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究」『土木計画学研究・論文集』25,P.357-362.

<sup>6</sup> 流山市地域福祉に関する 市民アンケート調査報告書

[https://www.city.nagareyama.chiba.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/032/534/r2tiikihukusityousakekka.pdf](https://www.city.nagareyama.chiba.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/032/534/r2tiikihukusityousakekka.pdf)

**【レポートに関するお問い合わせ】**

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部

TEL : 03-5877-7100 E-mail : kouhou@nri.co.jp